

全国愛農会事業計画書

2016年1月1日～12月31日

【基本方針】

1. 愛農教育の充実
循環型社会、持続可能社会の構築にむけて、生命を大切にする価値基準へと社会の仕組みを変えるために、愛農の理念と方向性を伝えていくために各種講座の開催。
2. 愛農高校を支える
具体的に生徒が生き生きと学べる環境づくり。
3. 国際協力
韓日平和交流、インドプロジェクト、AFAの活動を通して国際交流、協力を進める。
4. 愛農千年続く村づくり研究所（仮称）の設立
愛農会、愛農高校合同の研究所設立は愛農運動の総括にかかせないものであり、且つ愛農教育の将来的発展に寄与するものとする。

営農・就農事業

（事業）

定款第5条

1、農の真使命を自覚し、愛農精神をもって農業を担う人材養成

【具体的な事業及び課題】

1-1 第126回愛農大学講座開講

期日・2016年8月20日～28日

会場・愛農学園

参加者・30名（全日程20名、部分参加10名）

1-2 あいのうこども自然学校

期日・2016年7月中

会場・愛農学園

参加者・20名（小学校高学年）

運営体制（特に子どもたちへの対応と裏方準備を分ける）などの工夫が必要。こどもゆめ基金への助成金申請（12月3日締切）ができなかったため、参加費の見直しが必要。

1-3 愛農高校との連携 生徒・保護者に向けて、愛農会及び愛農運動の理解と協力

「小谷記念会」

記念講演

期日・10月1日

会場・愛農高校

参加者・教職員、生徒、会員ほか

愛農会・愛農高校共催

1-4 愛農農業の実施

愛農高校の授業として持続可能な農業の重要性、自然環境における農業の多面的機能について、農山村の役割と意味について伝えているが、今後内容・担当者を含めて検討する必要がある。

1-5 小谷記念コーナーの企画・展示

小谷純一の遺品・音声・映像の収集と整理・保存

2、農業を基盤とする地域社会づくりを推進するための研修事業

定款の理念にある「愛と協同の理想農村建設」を千年続く村づくりと表現して、農村が永続的に維持するためには何が必要なのかについて改めて考えるための村づくりセミナー、研修会の実施。

【具体的な事業及び課題】

2-1 千年続く村づくり ～それでも私たちは種を播く～

期日・2016年3月12～13日

愛農シンポジウム、愛農マルシェ

会場・青山ホール、愛農学園、ホテルローザブランカ

参加予定人員・1000人

千年続く村づくり・シンポジウム・マルシェに向けての実行委員会の開催

3、持続可能な農業経営・技術・暮らしの研修事業

新年度も有機農業の研修・普及。生活改善・省エネのための研修・普及などを推進していく。

【具体的な事業及び課題】

3-1 農産加工集中講座

期日・2016年12月～6日

会場・愛農学園

参加者・15人

3-2 命と持続的な暮らしを守るために
愛農サテライトカレッジ

(開催未定)

3-3 担い手養成集中講座(春期)
期日・2016年6月24日～25日
会場・愛農学園
参加者・10～20名

3-4 担い手養成集中講座(冬期)
期日・2016年11月29～30日

会場・愛農学園
参加者・10～20名

4、人材養成と地域づくりを推進するための普及・啓発事業

【具体的な事業及び課題】

4-1 月刊「愛農」誌の発行
毎月1100部印刷、1000部発行
※これまでは月刊誌として発行していたが、隔月発行の可能性有り。

4-2 地域ブロック交流・研修会

5、国内外から農業研修生受け入れ支援

【具体的な事業及び課題】

5-1 貸与奨学金の返還
昨年に引き続き、返還をスムーズにする。

5-2 奨学資金の確保
窓口はあるが、税額控除の適用を受けられなかったため、資金の受入は難しい。

6、農業・環境・平和に寄与している国内外の諸団体との交流並びに提携

【2016基本方針】

① AFA

AFA 主催の会議や招待を受けた会議は、村上真平さん・愛農会事務所が相談のもと、参

加。

AFA 事務局長のエスター氏を 70 周年記念事業に招待

②韓日平和交流会

今年度は正農会の会長を愛農会の 70 周年記念事業に招待。正農会も 40 周年の記念式典を夏に実施予定とのこと。愛農会からも正農会の記念式典に出席をする予定。韓日平和交流会の在り方については、旅行業法に抵触しないような形を模索する必要がある。

③インドスタディツアー

今年度のツアー実施は 2016 年 3 月の 1 度とする（龍谷大学ボランティア・NPO センターの春季海外体験プログラムとして採択。学生 5 名が参加）。これにともない、1 月 9 日に龍谷大学にて事前説明会を実施。3 月 25 日前後に事後説明会を実施予定（可能であれば愛農高校での農場実習を希望）。

④その他

要検討事項として台湾インターンシップの受け入れ。

【具体的な事業及び課題】

6-1 インドスタディツアー

期日・第 1 回 2016 年 3 月 2 ～ 3 月 10 日

参加者・14 名

龍谷大学ボランティア・NPO 活動センターの「春季海外体験プログラム」として採択された。学生 5 名が参加。ほかにも問い合わせを含めると 10 名以上の参加が見込まれる。1 月 9 日に龍谷大学にて事前学習会、3 月下旬に事後学習（愛農高校での農作業体験を希望）を実施予定。

6-2 韓日平和交流会

今年度は正農会の会長を愛農会の 70 周年記念事業に招待。正農会も 40 周年の記念式典を夏に実施予定とのこと。愛農会からも正農会の記念式典に出席をする予定。

（愛農会記念シンポ・フェス）

期日・2015 年 3 月 12・13 日

会場・青山ホール・愛農学園・ローザブランカ

※正農会の 40 周年については未確定

6-3 AFA（アジア農民の会）

細部については未定

6-4 インターン受け入れ

細部については未定

7、農産物及び加工食品等の認証

【目的】消費者の安全と生産者の安定的な食料供給に資するために認定事業を行っている。

【目標】ISO/IEC8.2.1 で求められている目標を設定する。

『本会は JAS 法はじめ各種法令を遵守し、認定業務規程類に基づいて常に信頼性の高い認定業務を行うことを目標とします。そのため認定業務に携わる者は常に研鑽に努め、役員・職員も必要に応じて情報を共有し技術向上を図ります。』

【具体的な事業及び課題】

○新規認定件数：5件

<有機農産物についての生産行程管理者>

生産者2名

<有機加工食品についての生産行程管理者>

加工業者2件

<有機農産物、加工食品についての小分け業者>

加工業者：1件

○有機認定講習会 年4回実施予定

○内部監査 10月

○見直し会議 6月（臨時で11月）

○認定業務者研修 8月

○判定会：原則毎週1回実施

○有機 JAS 登録認定機関協議会による公平性委員会

<外部>

○（独）農林水産消費安全技術センターによる事務所調査

○2015年度 有機食品等登録認定機関連絡会議

○有機 JAS 登録認定機関協議会 年次総会

収益事業 図書販売と施設設備の運営等

収益-1 物品販売

70周年記念事の一環として愛農叢書を発刊する予定。価格販売額については未定。

収益-2 施設設備運用収入

昨年度に於いて愛農ログの厨房の整備はほぼ終了しているので、ログの本格的な運用を予定している。